

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 国語科〉

|  |   |
|--|---|
| <p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「物語を読みとる」項目の正答率が71.4で目標値を2ポイント下回っていることから、本文の内容を理解し、登場人物の心情を読み取ることに課題がみられる。</li><li>・「文章を書く」項目の正答率が57.1で目標値を1ポイント下回っていることから、自分の思いを書くことで表現することに課題がみられる。</li></ul>   |   |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>○基礎学習時間の確保を図る授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経験したことを書く活動を多く取り入れ、書くことを習慣化させ、習ったひらがな・かたかな・漢字の日常化を図る。</li><li>・言葉を集める学習をくり返し、言語の種類や長音、拗音、促音、撥音等の表記の仕方や助詞の使い方を繰り返し指導し、日常化を図る。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・漢字は音読から取り組み、自分のペースで進められるようにしている。(意欲増進を目指す)</li><li>・漢字テストでは、新出漢字を使った熟語を書けるようにし、書いただけ点数がプラスされる仕組みを取り入れている。(語彙力アップを目指す)</li></ul> |   |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①漢字を学習する時間を確実にとり、教師が見とることを徹底する。</li><li>②書いたことが詳しくれば詳しいほど、教師からの評価も高いことを実感させ、書きたい意欲を高める。</li></ul>   | <p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①毎回の授業の始めの5分～10分は漢字の時間にあて、定着を図る。</li><li>②授業内で考えが書けたら、即時評価をその場で行い、向上心を高められるようにする。</li></ul>   |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①徹底して漢字学習の時間を確保してきたことが、漢字を習得することにつながった。</li><li>②即時評価は効果的で、「もっと書こう」「前回の学習を生かそう」という気持ちを高めることができた。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①漢字を覚えることが苦手な児童との個別の時間を確保することがなかなか難しく、家庭との連携が必要であった。</li></ul>  | <p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・漢字学習の取り組みは、どの学年でも活用できる方法で取り組んでいる。次学年でも継続していく。</li><li>・テスト返却などもそうだが、児童は即時評価を好むので、時間を上手に活用し、児童のやる気を維持、向上させていく。</li></ul> |
| <p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>新しいことを知り、やり方を工夫することで達成する喜びを味わい、学ぶ楽しさを感じられる児童</p>   |   |

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 社会科〉

|  |   |
|--|---|
| <p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小笠原村に関連することだけに限定せず、一般手な社会事象への興味関心、知識技能を高める必要がある。</li> <li>・社会科における学び方、問題解決的な学習を理解する必要がある。</li> </ul> <p>(小笠原が島嶼であることによる継続の課題であるため令和2年度授業改善推進プラン同様の課題を記載)</p>   |   |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会は今年度からのため、記載なし。「生活」を転記。</li> </ul> <p>○観点の明確化、主体的な活動を促す授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気づきを大切にした体験活動の充実をする。</li> <li>・体験活動で感じた楽しさや様々な感覚を通して、感じたものを互いに言葉、文、絵、動作、劇化などモデルとなる言語活動を選択したり、自ら考えたりして表現活動の充実を図る。</li> <li>・気づきを表現しやすくするために、「見付ける」「比べる」「例える」といった観点を示し意識させる。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート指導の充実。毎授業のノートの評価を児童に伝わる形で行わせたり、やり直しをさせたりすることで児童の学習効率が上がるようにしている。</li> <li>・全単元のはじめに、学習問題を考えるように提示し、それを解決するために学習をすすめていくことを定着させる。</li> <li>・身近な地域である小笠原について取り上げることで学習意欲を高めた上で、教科書に記載されている市区町村の内容で一般的な知識を身につけるようにしている。</li> </ul> |   |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①身近な地域である小笠原について取り上げることで学習意欲を高める。教科書に記載されている市区町村の内容で一般的な知識を身に付けるようにする。</p> <p>②単元ごとに解明することを明確にすることで、自分たちで解決することを体感させる。また過程を振り返り、どのような手立てで解決したのかを明確にする。</p>   | <p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①ワークテストを行い、点数の推移で見取る。</p> <p>②他教科で、社会で活用した課題解決のためのプロセスを想起し、計画や活用ができていくか見取る。</p>  |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <p>①身近な地域の学習によって、生活上の知識を生かして主体的に取り組むことができた。</p> <p>②本校が島嶼地域という特殊性がありながら教科書学習もしたことにより、一般的な知識を身に付けることができた。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本来社会科の内容でない地域安全マップ作りが社会として含まれていることによりまとめの活動の充実まで至らないためより計画性をもって指導に当たるのが肝要。</li> </ul>   | <p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も苦慮したが、児童は特殊な環境での生活であるため、内地と同様の指導をすると実感をもてなかったり、関心をもてなかったりする。身近な内容と内地の内容の指導を並立するとする。</li> <li>・時数が限られている中で地域安全マップ作りや、多くの体験学習が盛り込まれている。授業進度を指導書通りに進めると年度内に授業が終わらない。</li> </ul> |
| <p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>課題解決の学習の楽しさに気づき、自ら学ぼうとする児童</p>   |   |

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 算数科〉

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| <p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのひき算、かけ算九九といった基礎的な計算を正確に解く力を身に付けさせる必要がある。</li> <li>・ 令和5年度学力調査では、領域「数と計算」で全国平均を下回っていた。</li> <li>・ より具体的にイメージしやすいよう、既習内容や問題を可視化することが必要である。</li> <li>・ 個人差については個別の支援が必要である。</li> </ul>  |   |   |   |
| <p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>○ 図形やデータの活用における基礎・基本の定着を図る授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表やグラフを読んだり、書いたりする技能を高めると共に、活用する機会を増やす。</li> <li>・ 具体物の操作を通して、図形の構成を感覚的に捉えられるようにする。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業のねらいにつながる既習内容を確認する時間を確保し、児童が主体的に自力解決できるようにする。(おさらいの時間)</li> <li>・ 具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。</li> </ul>                                 |   |   |   |
| <p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>① 基礎的な内容の反復学習を行い、定着を図る。<br/>また、スキルタイム等を活用し、理解度を把握しておく。</p> <p>② 自力解決とペア学習の時間を多く設け、半具体物や図、言葉を使って解いたり、説明したりする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>① 授業の始めに、既習内容の確認を行い、基礎的な力の定着を図る。ペアで既習内容の問題を解き、ペアで正答を確認する。</p> <p>② ペア学習を計画的に取り入れ、自力解決やペア学習でできるようになったことをノートに振り返り、「わかる」「できる」を体感できるようにする。</p> </td> </tr> </table> |   | <p>＜方策＞</p> <p>① 基礎的な内容の反復学習を行い、定着を図る。<br/>また、スキルタイム等を活用し、理解度を把握しておく。</p> <p>② 自力解決とペア学習の時間を多く設け、半具体物や図、言葉を使って解いたり、説明したりする。</p> | <p>＜検証方法＞</p> <p>① 授業の始めに、既習内容の確認を行い、基礎的な力の定着を図る。ペアで既習内容の問題を解き、ペアで正答を確認する。</p> <p>② ペア学習を計画的に取り入れ、自力解決やペア学習でできるようになったことをノートに振り返り、「わかる」「できる」を体感できるようにする。</p> |
| <p>＜方策＞</p> <p>① 基礎的な内容の反復学習を行い、定着を図る。<br/>また、スキルタイム等を活用し、理解度を把握しておく。</p> <p>② 自力解決とペア学習の時間を多く設け、半具体物や図、言葉を使って解いたり、説明したりする。</p>   | <p>＜検証方法＞</p> <p>① 授業の始めに、既習内容の確認を行い、基礎的な力の定着を図る。ペアで既習内容の問題を解き、ペアで正答を確認する。</p> <p>② ペア学習を計画的に取り入れ、自力解決やペア学習でできるようになったことをノートに振り返り、「わかる」「できる」を体感できるようにする。</p>                                     |   |   |
| <p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「おさらい」の時間を十分にとったことで、単元の導入で学習の見通しをもち意欲的に学習に取り組むことができた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発言する児童が固定化してきているので、みんなで考える時間と話し合い活動の時間を確保する必要がある。また早く考えをまとめた児童の待ち時間のためのプリント用意する必要がある。</li> </ul>  | <p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟度別に2クラス展開して授業を実施してきたが、基礎基本の学力が定着していない児童が多いため、一斉授業に限界がある。個別最適な学びの実現のために、個に応じたプリントを用意する必要がある。</li> </ul> |   |   |
| <p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教わっていないからわからないという受け身から、わからないからこそ知りたいと自分から学ぶことができる児童</li> </ul>   |   |   |   |

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 理科〉

|   |  |
|---|--|
| <p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科における学び方、問題解決的な学習を理解する。</li> <li>・小笠原に関連する地域教材だけでなく、一般的な理科的事象への興味関心、知識技能を高める必要がある。</li> </ul>   |  |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科は今年度からのため記載なし。「生活」を転記。</li> </ul> <p>○観点の明確化、主体的な活動を促す授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気付きを大切にしたい体験活動の充実をする。</li> <li>・体験活動で感じた楽しさや様々な感覚を通して、感じたものを互いに言葉、文、絵、動作、劇化などモデルとなる言語活動を選択したり、自ら考えたりして表現活動の充実を図る。</li> <li>・気付きを表現しやすくするために、「見付ける」「比べる」「例える」といった観点を示し意識させる。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が知りたい、調べたいと思えるような導入を心がける。</li> <li>・問題に対するまとめが確認できた後で、更に追求して見たいくなる発問を心がける。</li> </ul> |  |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①日常体験の想起や体験の中から疑問を見い出せるようにする。</p> <p>②まとめができた後で、さらに仮説を考えられるようにする。</p>   | <p>＜検証方法＞</p> <p>①使用する用具を使ってみてから感じたことを話し合い、その対話から問題を見いだす。</p> <p>②初めは教師から仮説を与える。その後、「それならば…」「ということは…」をキーワードとして、児童が仮説を考えられるようにする。</p> |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>①日常生活や2年生までの生活科を中心とした遊びから、学習内容を想起することで、必要感を持って学習にむかえていた。</p> <p>②実験を終えて、更に知りたいことを考え、調べたり追加実験をしたりしたことで学びへの意欲を持続できた。</p> <p>＜課題＞</p>   | <p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考察を充実させるために、多面的に実験結果を捉えられるようにする。</li> </ul>           |
| <p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>問題を見いだし解決していく道筋を立てていくことができる児童</p>   |  |

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 音楽科〉

|   |  |
|---|--|
| <p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。</li> <li>・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。</li> <li>・歌唱や器楽（特にリコーダー）の技能の個人差が大きく、支援を要する児童については特に丁寧に個別指導を行う必要がある。</li> </ul>   |  |
| <p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手遊び歌等を通して聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて考える。</li> <li>・フラッシュカードやスライド等を活用し、表現活動と結びつけながら意味や使い方を覚える。</li> <li>・表現に必要な技能を個別に見取る機会を設け、支援が必要な児童については特に丁寧に指導する。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。</li> <li>・曲を聴いたり楽譜を見たりして曲の特徴についての気づきを深めたり、様々な表現方法を試したりして、曲の特徴を捉えた表現ができるようにしている。</li> <li>・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。</li> </ul> |  |
| <p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について気づきを深めたり、それを捉えた表現をしたりすることができるようにする。</li> <li>②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。</li> </ul>  | <p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲の特徴についての気づきや表現の工夫について深めることができたか確かめる。</li> <li>②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。</li> </ul>   |
| <p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読譜指導と並行して楽譜を見て気付いたことを共有する場面を設けたことで、曲の特徴を視覚で捉え、表現に生かす姿が見られた。</li> <li>・歌唱や器楽表現を個別に見取る機会を設けることで、その後の個別指導に生かすことができ、技能を高めることができた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習得した知識や技能を次の学習に生かすことが難しい場面がある。</li> </ul>   | <p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発言やワークシート等で感じたことや気付いたことを表出する力に個人差があり、選択肢を与えたり個別の声掛けをしたりすることや、ICTを活用するなど手だてを工夫する必要がある。</li> <li>・技能習得に時間がかかる傾向があるため、教材選択や題材計画に軽重を付ける等の工夫をしたり、個別指導を重点的に行ったりする必要がある。</li> </ul> |
| <p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <p>感じたことや気付いたことを生かし、思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや面白さを味わいながら聴いたりする学習に進んで取り組むことができる児童</p>   |  |

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 図画工作科〉

|  |  |
|--|--|
| <p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。</li> <li>・道具や材料の基本的な使い方をしっかりと理解し、つまずきなく楽しく活動できるようにする。</li> <li>・お互いの作品の良いところを参考にしたり、以前学習したことを生かしたりすることができているので、さらにその力を高める。</li> </ul>  |  |
| <p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けた技能を繰り返し使える機会を増やし、定着を図る。</li> <li>・工夫している児童の作品、様々な参考作品や考え方を紹介する。</li> <li>・材料や道具などの使い方や工夫できるところや組み合わせでできることなどを確認する。</li> <li>・アイデアスケッチ、ワークシートなどを活用してアイデアを広げる。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や道具などの使い方を掲示やICTを活用して確認する。</li> <li>・児童作品を紹介したり、幅広く材料や道具などを選べる題材などを設定したりして、自分なりに考えたり、選んだりする活動を増やす。</li> </ul> |  |
| <p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>① 掲示やICTを活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行う。</p> <p>② 自分なりに考えたり、選んだりする場面を増やして、自分でつくりだす力を高める。</p>  | <p>＜検証方法＞</p> <p>① 児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、活動につまずきがないようにする。</p> <p>② 児童や作品観察。そのような場面の時に全児童がある程度自分のつくりたいものに合わせて、自分で考えたり、選べたりできるようにする。</p>   |
| <p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <p>① 全ての児童が材料や道具を正しく扱え、活動につまずきがない授業ができた。</p> <p>② 全児童が、自分のつくりたいものに合わせて、自分で考えたり、選んだりして造形活動ができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>構想を練るのに時間がかかりすぎて、表現に慎重になりすぎる児童が多い。発想が広がるような資料や、イメージを広げるワークシートなどを用いて改善していく。</p>  | <p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活規律への意識の継続と向上。学習ルールの徹底し、安全確認を常に行い、事故のないようにする。</li> <li>・ねらいを焦点化し、児童の主体性を生かしながら、協働的な制作の場を増やす。ICT機器を活用し、見取りや評価を迅速にし、個別最適化を目指し、きめ細やかな指導をする。</li> </ul> |
| <p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <p>造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かり、豊かにつくったり表したりすることができる児童。豊かに発想や構想をし、自分の見方や感じ方を広げたりすることができる児童。進んで形や色等に関し豊かな生活を創造しようとする児童</p>   |  |

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 体育科〉

|  |   |
|--|---|
| <p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域によって好きな運動、苦手な運動の偏りがある。運動の特性を理解し、様々な運動に楽しく取り組むことが課題である。</li> <li>・不安や怖さを取り除いて学習に取り組めるようにすることが課題である。</li> </ul>  |   |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>○基本的な動きを身に付ける授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな運動に触れて多様な運動遊びの機会多く設け、運動感覚を養う。</li> <li>・関わり合いの場面を意図的に設定し、教え、励まし合い、応援、ルールの工夫など共に運動することの楽しさへの意識を養う。</li> <li>・服装の確認、集団行動（前へならえ、やすめ、気をつけ、体操の隊形、体育座り等）を取り入れる。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「できる」ことが体育の全てではなく、「知る」「みる」「支える」の4つの楽しさがあることを伝えることで、できないことへの劣等感で体育嫌いを生み出さないようにする。</li> <li>・運動との出会いを大切にし、「やってみたい」という思いを引き出せるようにする。</li> <li>・「やってみたい」思いが怖さによって縮こまってしまうことを防ぐための運動特性の理解と教具の活用をする。</li> <li>・静的準備運動ではなく、動的準備運動にすることで気持ちを高めて学習に入れるようにする。</li> </ul> |   |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①領域ごとのオリエンテーションを充実させる。</li> <li>②児童の声で授業展開を変えていく。</li> </ul>   | <p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①特に器械運動や体づくり運動において、体育学習漫画や技能アプリを活用して意欲向上をはかる。</li> <li>②全領域の学習において、振り返りカードの記載内容を基に、技のポイントを共有したり次々の導入に活用したりしていく。</li> </ul> |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①運動との出会いに力をいれたことで、遊びとのギャップを感じることなくつながることができた。</li> <li>②振り返りの言葉をもとに、ポイントを共有したり次々の活動を変えたりしたことで、書く必要性を実感して学びに向かっていた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <p>マット運動の場づくりや取り扱う技に苦戦した。</p>   | <p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の見方考え方を大切にし、「する」喜びだけではなく他3つも大切にして運動の楽しさを味わわせていきたい。</li> <li>・</li> </ul>                       |
| <p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>苦手な運動でも、楽しさを見つけチャレンジしてみようという気持ちで運動に取り組める児童</p>   |   |

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 道徳科〉

|   |  |
|---|--|
| <p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教材、資料から、その道徳的価値について、自分事として深く考えられる力を身に付ける。</li><li>・考えたことを実践、実行する力を身に付ける。</li></ul>   |  |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>○自分の考え方や感じ方に気付ける授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・話合いの視点を明確にし、話合いをしやすくする。</li><li>・考えをもつための時間の確保をしたり、自分の気持ちの視覚化したりする。</li><li>・具体的な場面を思い起こさせることで、自分の生活とつなげて考えさせ、価値への意識付けを行う。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教師と児童の1対1の問答にならないよう、児童同士、学級全体で話し合える場を多く設定する。</li><li>・動作化や役割演技を入れる中で、道徳的価値を自分事としてとらえる機会を多くもつ。</li><li>・毎時間、一人で今日の学習を振り返る時間をつくり、その授業の道徳的価値を自分事として理解する。</li></ul> |  |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①話の内容を多角的多面的に捉えられるようにする。</li><li>②人との意見の違いを感じながら、多様な考え方に触れて自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。</li></ul>   | <p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①動作化、役割演技を取り入れ、自分の思いを表出しやすい環境をつくる。</li><li>②「なぜ」「どうして」「自分だったらどうするの」を問答しながら、みんなで考えていく時間を毎時間必ず設ける。</li></ul> |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①役割演技は気持ちを考えるうえで効果的であった。</li><li>②行動の理由を問う発問は効果的であった。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>②自分事として考えることが難しいときがあった。発問を吟味していく必要がある。</li></ul>  | <p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分事として考えるための物語からのスムーズな発問。</li><li>・</li></ul>  |
| <p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>自分自身を振り返り、教材を通して、よりよくしていこうとする気持ちを持ち行動できる児童</p>  |  |



【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 総合的な学習の時間〉

|  |   |
|--|---|
| <p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小笠原独自の自然、文化、伝統を学び、その大切さを理解し、継承していこうとする気持ちを養う。</li></ul>   |   |
| <p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・記載なし</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・探究的な学習過程を通して、自分自身で情報を取捨選択し、整理できるようにする。</li><li>・次世代につながるように自ら進んでまとめていく。</li></ul> |   |
| <p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①学習ゴールを提示し、それに向かって自分自身や友達同士で、探求し情報を整理しまとめていく。</p> <p>②調べてきたことや取り組んできたことが見える形で表れるようにする。</p>   | <p>＜検証方法＞</p> <p>①ワークシートを活用しながら、自分で考えたことを随時まとめポートフォリオ化していく。</p> <p>②発表できる場を設定し、やってきたことへの達成感を味わえるようにする。</p>                  |
| <p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学んできたことを発表する場があることで、意欲的に発表方法を考えたり練習したりする姿につながった。</li></ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・特になし</li></ul>  | <p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・事前に学習の見通しを持ち、目的意識を持って学習を進められるようにする。</li></ul> |
| <p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>自分が調べたいことや知りたいことを探求し、発表方法を考え表現することができる児童</p>   |   |